

ごあいさつ

小松市では、「ひと・まち・みどりが輝くこまつ」の実現を目指して、様々な施策を展開しておりますが、都市計画行政におきましても、官民一体となったまちづくりの推進が最重要課題となってきております。近年は、自分たちの町の「まちづくり」を考える先進地視察や自主学習会の開催といった町単位での活動も多くなり、景観への関心の高まりを大変喜ばしいことと感じております。

このような中、都市景観の向上と市民の皆さんのまちづくりに対する意識の高揚を目的に実施してきた本賞も、今年で8回目を迎えました。今回は、これまで以上に景観まちづくりを身近に感じていただくため内容を一新し、「まちなみ部門」、「景観まちづくり部門」の二つの部門を創設いたしました。

「まちなみ部門」は、建築物・工作物・空間等（ハード面）に目を向けたもので、「景観まちづくり部門」は、継続してまちなみ景観の創設や維持保存に関わってこられた団体等の活動（ソフト面）に目を向けたものです。

今年は7月から8月にかけて募集を行い、67件の応募をいただきました。学識経験者、専門家、市民の代表の皆さんで組織した選考委員会による第1次審査、第2次審査、そして市民投票を経て、「まちなみ部門」では四つの建築物が、「景観まちづくり部門」では一つの団体が受賞されることになりました。

皆様には、「こまつまちなみ景観賞」の受賞を心からお喜び申し上げますとともに、今後とも美しい小松の景観づくりにご理解とご協力、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。



こまつまちなみ景観賞
実行委員会会長
小松市長 西村 徹

趣旨

「こまつまちなみ景観賞」はまちづくりの取組みとして、さらに都市景観の向上と市民のまちづくりに対する意識の高揚を図ることを目的として、小松の自然、風土に調和し優れた都市景観づくりに貢献している建築物などを選び、それに携わった人々を顕彰するものです。

賞

実行委員会では、こまつ市の優れたまちなみ景観に対して、広く市民に周知するため、受賞された施主・団体の方々に、九谷窯元工業協同組合製の「九谷焼の銘板」を贈呈しています。



表彰銘板

まちなみ部門



◎ 石川県立小松高等学校

丸内町

施主 石川県
設計者 [代表] (株) デララス
施工者 [代表] トークン・田嶋建設特定建設工事共同企業体

講評 / 既存樹木を活かしつつ施設配置するなど、緑多い芦城公園との景観上の一体化が図られている。また高層棟を中央に配置するなど、近接住宅地への圧迫感軽減等も配慮され、ゆったりとした街区環境を形成している。



◎ 空とこども絵本館・広場・絵本館ホール

小馬出町・京町

施主 小松市
設計者 [代表] (株) アルセッド建築研究所 / 建築研究室セクションアール 北陸アトリエ
施工者 [代表] 加越建設(株) / (株) 竹中建設

講評 / 近代の息吹を感じさせる歴史的建築物を改修し、新たな機能と魅力の創造に成功している。また、隣接建物及び屋外空間との一体的な整備により、統一感のある街区景観を生み出している。

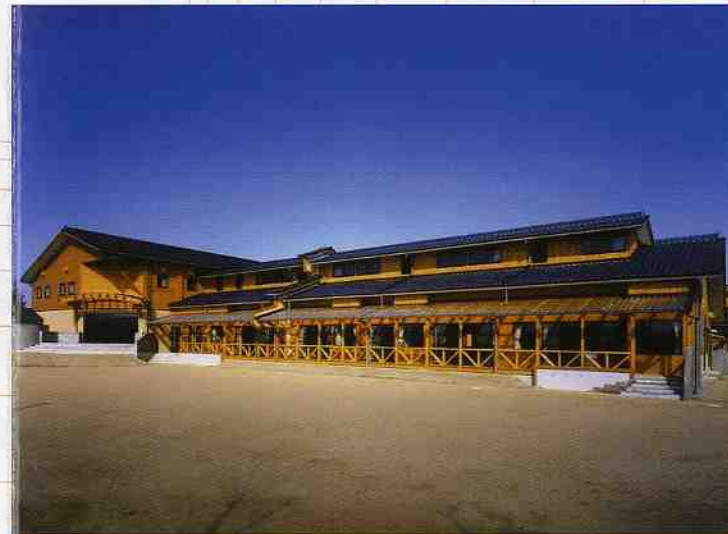


◎ 石田邸

材木町

施主 石田 末子
設計者 北川建築設計事務所
施工者 デグチプランニング建築事務所 / (有) 中出ハウジング

講評 / 材木町の景観まちづくりの意義をよく理解し、小松の伝統的町家の造りに沿った建物として新築。家並の連続性と歴史的街区の雰囲気維持に寄与している。



◎ 舟見ヶ丘保幼稚園

河田町

施主 社会福祉法人国府福祉会
設計者 (株) 織田設計
施工者 名工建設(株) 北陸支店

講評 / 広々と開けた郊外景観にフィットしたおらかでかつ親しみ感のある外観デザイン、並びに白山等の周辺眺望景観を活用した施設計画となっている。

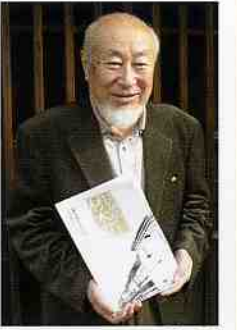
景観まちづくり部門

材木町地区歴史文化回廊
まちづくり協議会

代表者 関戸 昌郎 [材木町]

■ 活動内容・活動実績

- 平成15年 10月 懇話会の設置
- 11月 先進地視察
- 11月 ワークショップの開催
- 16年 1月 まちづくり協議会設立における準備会
- 2月 まちづくり協議会設立総会
- 3月 こまつ町家再生モデルについての勉強会
- 10月 総会開催
- 11月 まちづくり協定の締結、協定書の提出
- 17年 7月 先進地視察
- 9月 研修会開催
- 18年 5月 審査会開催
- 11月 先進地視察



関戸氏



視察風景

・毎年町民へのまちづくりの意識向上を図るため、町民向けの便りを数回発行。
・小松市で初の景観まちづくり重点地区の認定を受ける。
・町家再生のまちづくりの精神を尊重した改築が17年に2件、18年に1件、新築が18年に1件行われた。

講評 / 住民が主体となり、長い期間にわたっての地道でねばり強い景観まちづくりへの取り組みは、着実な成果を生みだしてきている。歴史文化を下地とした小松のまちづくりの発端としても十分評価できる。

審査講評

今年度からこれまでの表彰内容（今回からは「まちなみ部門」と名称）に加え、景観まちづくりへの取り組み活動を評価する「景観まちづくり部門」が新設されました。こまつまちなみ景観賞も新たなステップが始まったと言えます。

今回は67件の応募がありました。一次の書類審査で「まちなみ部門」を13点に絞り、引き続き現地審査を行い、市内4ヶ所で行われた市民投票結果（総数809票）を参考にしつつ、最終的に「まちなみ部門」4点と「景観まちづくり部門」1団体を入賞として選出いたしました。

今年度は公共施設に優れたものが多く、一般住宅や商業施設の多くが最終審査の段階で入賞にいたりませんでした。しかしながら、年々着実にレベルアップしていることは確かなことと言えます。また、材木町の石田邸に見られるように、まちづくりの意義を理解し尊重した取り組みも新たな動きと言えます。「材木町地区歴史文化回廊まちづくり協議会」の地道な活動にも、大きな拍手を送りたいと思います。

今後ますますの市民の強い参画意識の醸成と、歴史的風情と現代的魅力が共存する快適で個性豊かな小松のまちなみが築かれていくことを一層期待いたします。



こまつまちなみ景観賞選考委員長 森 俊偉